所感－「医療」編集委員を拝命して

国立研究開発法人国立長寿医療研究センター
臨床検査部長
徳田　治彦

四月から「医療」編集委員を仰せつかりました．国立長寿医療研究センターにおける編集委員の交代は，その前身である国立療養所中部病院時代から数えて実に20年ぶりのことでした．前任者が研究所の基礎研究部門の職員であったためか，（私も含めて）病院職員における本誌に対する関心がもう一つであり，従って最近は投稿意欲も低調であったものと思われます．一方，国立病院総合学会には病院職員多数が参加し，活発に研究発表を行ってきておりました．そこで，まず本誌の認知度を高め，そして論文発表にも意欲を持ってもらえるよう少しずつ努力しようと思っていたところでした……．

七月，初めて出席した編集会議の席上のこと，議事がスムーズに進行しそろそろ終わりが近いと油断していたところ，2017年の図説シリーズのテーマを「認知症」としてはどうか，その場合私共のセンターが担当しては，との提案がありました．「骨粗鬆症」が専門の私の一存では即答出来かねましたので，持ち帰り検討させて頂くことと致しましたが，特に「認知症」を強みとする当センターをアピールする機会として，またセンター内で本誌を周知する好機として，前向きに対応しようと自らを励ましつつ，帰路につきました．幸い，センターを挙げての全面的な協力が得られ，来年の図説シリーズ全11回を国立長寿医療研究センターの執筆陣が担当させて頂くこととなりました．そこでは認知症の外来サービス，診断・治療・ケア，BPSDへの対応，地域連携などの臨床に即したものから研究最前線まで，様々な内容が分かりやすく解説されるものと存じます．どうぞご期待ください．

当センターは名古屋市の隣，知多半島の付け根，大府市にあります（女子レスリングのメッカとして有名な至学館大学のあるところです）．大府市は，豊田自動織機や愛三工業など自動車関連の製造業とともに，じゃがいも，ぶどう，たまねぎなどの産地として農業も盛んで，人口10万と小規模ながらも愛知県の縮図のような自治体です．一方，「健康都市」を標榜するとともにWHO健康都市連合にも加盟しており，私も健康づくり対策審議会委員長として，少しばかりお手伝いさせて頂いています．愛知県や隣の東浦町とウェルネスバレー構想を展開しており，センターの西には広大な「あいち健康の森公園」が整備されています．また，国立療養所中部病院の重心病棟跡地に開設された「あいち小児保健医療総合センター」をはじめ，近隣には「あいち健康プラザ」や「認知症介護研究・研修大府センター」もあり，疾病予防・医療・介護などのサービス・研修に大変恵まれた地域であると思います．JR名古屋駅から13分，中部国際空港「セントレア」から約30分と交通も至便な所です．せっかくの機会ですので地元，愛知県大府市を紹介させて頂きました．

「医療」編集委員はほぼ全ての医療系職種から選出されており，まさに「チーム　医療」といった印象です．また，編集長をはじめ委員各位の投稿者を思いやる暖かいコメントには，チームのまとめ方を教えて頂く思いがしております．一方，投稿規定等は極めて緻密に構成されており，委員が検討する事前の一次校正も大変しっかりされていると感じます．初めての方には，一見厳しく敷居が高いように感じられるかもしれませんが，（決してそうではなく）研究の遂行から論文完成までのテクニックの習得に大変よい機会になることと存じます．最後になりましたが，様々な職種の皆様からの多種多彩な原稿を拝読，勉強させて頂きたいと思っております．どうぞよろしくお願い申し上げます．